

産業社会学部現代社会学科

現代社会専攻、メディア社会専攻、スポーツ社会専攻、人間福祉専攻

中一種免（社会、保健体育）、高一種免（地理歴史、公民、保健体育）、特支一種免（知・肢・病）

## 教員育成に対する理念および認定課程設置の趣旨

### 1. 教員養成に対する理念

産業社会学部は、社会的現実の提起するすぐれて現代的な諸問題を既存の学問諸分野との協同によって具体的に解明し、かつ現代社会を新しい方法によって総合的に把握することを教学理念に設置されており、学際性と専門性を兼ね備え、積極的に社会に働きかけて社会問題の解決を目指す人材を育成することを教育目的としている。

以上のような学部教学理念と人材育成目的を踏まえて、産業社会学部では次のような力量を備えた教員を養成することを理念としている。

（１）授業力（確かな学力のもと、深い授業観を持ち、授業を遂行する）として、現代社会の提起する諸問題に対する感性と洞察力およびそれらを総合的に把握・分析・解決するための社会諸科学の専門的知識を有し、それを授業の中に活かして学級運営および教育指導を円滑に進める力量を有していること。

（２）児童生徒理解力（児童生徒を理解し児童生徒と適切に関わる）として、子どもたちを取り巻く現代社会の状況、生育・生活環境や子どもの発達に関する社会科学的視点からの理解に立って、一人一人の子供たちの発達状況を把握し、学びに対する要求を的確に受け止め、その成長に活かしていくことのできる力量を有していること。

（３）コミュニケーション力（学校における多様なコミュニケーションを行う）として、社会科学的知識や認識方法を活用して子どもたちの発達段階や生活状況に即したコミュニケーションを築くことができるとともに、教職員集団の一翼を担う者として責任ある協働関係を作ることができる力量を備えていること。

（４）マネジメント力（学校における各種マネジメントを行う）として、社会科学的認識に基づく実践的な課題解決能力の訓練を、学級経営・学校運営および日々の教育活動において直面するさまざまな諸課題に対する創造的なマネジメント能力として活かしていく力を持っていること。

（５）教師としての自己形成力（教職に関する深い知識や倫理を身につける）として、社会科学的認識の蓄積や社会的諸課題に対する課題解決能力の訓練を通じて獲得した自己成長力を、教員としてのキャリア形成に活かし、プロフェッショナルな教員として自己研鑽を続ける力量を備えていること。

（６）学び続ける力（学校教育をめぐる問題を解決するために学び続ける）として、社会科学的認識や実践的な課題解決手法に関する学びを深めた経験を踏まえ、職業的環境の中で自発的な自己研鑽能力としてこれを活用して学校運営及び教育実践に関わる学習活動を継続し、深い問題認識と有効な解決策の実践に繋げていく力量を備えていること。

このような学部全体に共通する理念に加えて、各専攻では以下のような教員養成を理想としている。

現代社会専攻では、自然環境と経済成長が調和した持続可能な社会の創造や公共空間の再生、また社会倫理や国際ネットワークの構築など、現代社会が抱える諸課題とその問題解決に関する領域についての専門知識を有しており、それを基礎とした上述の六つの力を持った教員を養成することを目指している。

メディア社会専攻では、メディアの歴史と社会的機能および現代メディア文化に関する領域についての専門知識、およびメディア情報を分析しメディアを有効に使える力を有しており、それを基礎とした上述

の六つの力を持った教員を養成することを目指している。

スポーツ社会専攻では、スポーツの歴史、スポーツと文化、スポーツと社会、産業としてのスポーツに関わる領域について専門知識を有しており、それを基礎とした上述の六つの力を持った教員を養成することを目指している。

人間福祉専攻では、政治・経済・文化・社会領域と関わらせた福祉理論および福祉実践についての専門知識、および修得した知識・技能を企業や NGO・NPO の現場で活かせる力を有しており、それを基礎とした上述の六つの力を持った教員を養成することを目指している。

## 2. 認定課程の設置の趣旨

### ● 中学校教諭一種免許状（社会）

産業社会学部現代社会学科は、現代社会に生起する様々な社会的事象、社会問題等を学際的・総合的に解明していくことを教学の理念としている。そのため、自らの専門に偏るのではなく、多面的で多角的な視点から社会を分析していくことのできる力量の形成を期して、専攻横断的なクロスオーバーラーニングという考え方を採用し、ダブルメジャー制度を設けている。併せて、単なる座学によって知識として社会を知ることには留まるのではなく、学生自身が社会的諸課題に関わることで社会参画の能力を高めていくことを目指して独自のアクティブラーニングを実践している。このような学びは、中学校社会科で期待されている学びそのものであるといえ、その意味で本学科においては質の高い社会科授業を提供できる教員を養成することが可能になっている。

以上の理由により、本学科に中学校教諭一種免許状（社会）の取得が可能な教職課程を設置している。

### ● 中学校教諭一種免許状（保健体育）

産業社会学部現代社会学科は、学際性と専門性を高い次元で兼ね備え、積極的に社会に働きかけ、現代社会に生起する多様な諸問題の解決を図ることができる有為な人材の育成を使命としている。特に、スポーツ社会専攻では、従来のように「スポーツ」を単なる競技のフィールドとしてくくるのではなく、人間生活のさまざまな領域と結びつく複合的な文化として捉え、平和・人権・ダイバーシティ・健康・産業発展・地方創生・福祉・メディア・環境問題をはじめ、現代社会の諸側面およびそこに見られる課題の理解と解決に資するものとして位置づけている。従って、他専攻の教学と有機的に結びつけつつ人文・社会科学的知識を基盤とした教学を展開し、広く社会の中でスポーツをマネジメントできる人材の育成を教学理念としている。中でも、学校教育に高い能力を備えるとともに、スポーツ文化の特性や技能、歴史を理解し、教授できる能力や、スポーツの見方・考え方を働かせ、自己や集団、組織等をマネジメントできる能力をあわせもち、国民の生涯にわたる豊かなスポーツライフの形成に貢献できる保健体育科教員の養成を最も重要な理念としている。

現代社会において、スポーツは、より豊かで健康的な社会の創造に大きく寄与するものとして社会から強い期待を寄せられ、その結果、広く社会と結びつき非常に多様な展開を見せている。そのため保健体育科教員も、学校体育を越えて、地域住民、企業、団体等と協働し、豊かな生涯スポーツ社会を実現できる地域コミュニティを創出する等、新たな役割を求められている。本学科では、スポーツ社会専攻における専門的教學を機軸としながら、ダブルメジャー制度等の専攻横断的な学際的教學も展開されており、まさに現代社会のニーズに応じた幅広い視野と能力を持ち、「体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現する」という目標をよりよく達成できる保健体育科教員を養成するのに最適な教学理念と環境を有している。

以上の理由により、本学科に中学校教諭一種免許状（保健体育）の取得が可能な教職課程を設置している。

● 高等学校教諭一種免許状（地理歴史）

産業社会学部現代社会学科においては、現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開についての一般的・包括的な科目の他、社会的な視点から我が国の歴史的過程を分析したり、家族、地域文化や環境、資源といったミクロ・マクロの両視点から人々の生活・文化について分析したりする科目が多彩に開設されており、これらの学修を通じて、豊かな地理・歴史認識の育成が可能になっている。そのため、本学科での学びはそのまま高等学校地理歴史科の教員に求められる高い専門性を培うものになっている。

以上の理由により、本学科に高等学校教諭一種免許状（地理歴史）の取得が可能な教職課程を設置している。

● 高等学校教諭一種免許状（公民）

産業社会学部現代社会学科では、クロスオーバーラーニングの仕組みやアクティブラーニングの実践のみならず、国際社会や日本社会の変化の様相や地球的課題に関わる科目、社会規範、生命倫理、ジェンダー、多文化共生、メディアリテラシー、NIEなどの科目も開設されており、現代社会を広い視野に立って主体的に考察し、社会に生きる人間としての在り方生き方を考えていくことが可能になっている。これは高等学校公民科における目標と重なるものである。そのため本学科における学びは高等学校公民科を教えていく上で必要とされる幅広い問題意識と高い専門性を培い、質の高い公民科授業を展開するための力量を形成し得るものになっている。

以上の理由により、本学科に高等学校教諭一種免許状（公民）の取得が可能な教職課程を設置している。

● 高等学校教諭一種免許状（保健体育）

産業社会学部現代社会学科は、学際性と専門性を高い次元で兼ね備え、積極的に社会に働きかけ、現代社会に生起する多様な諸問題の解決を図ることができる有為な人材の育成を使命としている。特に、スポーツ社会専攻では、従来のように「スポーツ」を単なる競技のフィールドとしてくくるのではなく、人間生活のさまざまな領域と結びつく複合的な文化として捉え、平和・人権・ダイバーシティ・健康・産業発展・地方創生・福祉・メディア・環境問題をはじめ、現代社会の諸側面およびそこに見られる課題の理解と解決に資するものとして位置づけている。従って、他専攻の教学と有機的に結びつけつつ人文・社会科学的知識を基盤とした教学を展開し、広く社会の中でスポーツをマネジメントできる人材の育成を教学理念としている。中でも、学校教育に高い能力を備えるとともに、スポーツ文化の特性や技能、歴史を理解し、教授できる能力や、スポーツの見方・考え方を働かせ、自己や集団、組織等をマネジメントできる能力をあわせもち、国民の生涯にわたる豊かなスポーツライフの形成に貢献できる保健体育科教員の養成を最も重要な理念としている。

現代社会において、スポーツは、より豊かで健康的な社会の創造に大きく寄与するものとして社会から強い期待を寄せられ、その結果、広く社会と結びつき非常に多様な展開を見せている。そのため保健体育科教員も、学校体育を越えて、地域住民、企業、団体等と協働し、豊かな生涯スポーツ社会を実現できる地域コミュニティを創出する等、新たな役割を求められている。本学科では、スポーツ社会専攻における専門的教學を機軸としながら、ダブルメジャー制度等の専攻横断的な学際的教學も展開されており、まさに現代社会のニーズに応じた幅広い視野と能力を持ち、「体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続する」という目標をよりよく達成できる保健体育科教員を養成するのに最適な教學理念と環境を有している。

以上の理由により、本学科に高等学校教諭一種免許状（保健体育）の取得が可能な教職課程を設置している。

● 特別支援学校一種免許状（知・肢・病）

産業社会学部現代社会学科の幅広い教学内容と専門性、学際性を活かし、現代社会の諸課題と教育・福祉領域を幅広く履修させることを基礎にして、本課程では、特別支援教育の求める理念と責務、教員としての資質を形成することを設置の趣旨としている。

特別支援教育においては、障害の捉え方が変わり、また子どもの権利条約や障害者権利条約などによる差別の撤廃や発達の権利性、個人の尊厳・固有性が「障害児の権利」としてその保障の必要かつ重要性が明文化され、それに伴って教育そのものの在り方も変更になってきている。基礎的配慮や合理的配慮に基づきながら、教育が福祉、医療、労働等の様々な(分野)機関との連携体制を図り、子どもの姿を丸ごととらえ生活面での支援も視野に入れた「個別の教育支援計画」の策定（や、特別支援学校による「地域における特別支援教育のセンター的機能」）、教育と福祉、さらには家庭との連携を推進する「トライアングル」が求められるように、多職種連携によって教育をすすめていくことへと教育体制も変化をしてきている。また、障害児の家族のなかには、経済的な基盤が安定せず貧困な状況にある家庭や、子育てそのものがわからず暴力を振るって子どもを虐待したり、子育てそのものを行わない家族の姿も見受けられるようになっており、子どもの育ちとともに家族の育ちを支える教育の役割はますます大きくなっている。

このように特別支援教育は、現代社会の複雑な困難さを、表面上の形式的な「問題」にのみとらわれることなく、社会科学的な読み解きや人間発達の理論などの幅広い知識と識見から、他機関とつながって教育実践をすすめることのできる教員養成を必要としており、本学科のカリキュラムがそのニーズに相応しい科目群を形成している。

以上の理由により、本学科に特別支援学校一種免許状（知・肢・病）の取得が可能な教職課程を設置している。